

# 防コミの歩き方

BOSAI  
KOBEMIRAI

## 未来ある命を守れ! 子ども達の津波避難訓練

南海トラフ巨大地震に備えて、子ども達の防災意識を高めるとともに、津波から早期に避難できる体制を作ることを目的に、子ども達が地域の方々や消防団と一丸となって一斉に避難する訓練をおこないました。

### ●参加機関

西郷小学校、灘小学校、灘保育所、灘児童館、灘すずかけ幼稚園、西郷防災福祉コミュニティ、河原防災福祉コミュニティ、神戸大学都市安全研究センター、灘警察署、灘区役所、灘消防団、灘消防署

訓練には校区の一部に兵庫県津波被害警戒区域を含む西郷小学校を中心に、小学校2校、保育所や幼稚園、児童館の子ども達や保護者など約1,200人が参加しました。

### ●訓練概要

訓練は和歌山県沖を震源とする震度6弱の地震が発生し、その後津波警報が発表されたとの想定で実施されました。まず、西郷小学校の6年生が学校に隣接する幼稚園年長組の子ども達の手を引いて、北へ約1km離れた高台にある灘小学校まで徒歩で水平避難をおこないました。途中、6年生が幼稚園の子ども達に「足元に気をつけて」、「暑いけど大丈夫?」などと、気を配りながら歩き、約15分で到着しました。その後、灘小学校では両校の6年生が合同で救急講習を受講し、災害時における人命救助についても学びました。

一方、西郷小学校では1年生から5年生が一旦校庭へ避難し、校舎の安全が確認さ

れた後に3階以上の階へ垂直避難をおこないました。周辺に立地する幼稚園や保育所、児童館の子ども達や保護者も西郷小学校へ集まり、同じく3階以上の階へ避難しました。西郷小学校までは西郷防災福祉コミュニティの方々の避難誘導や安全管理を受け、スムーズに避難することができました。

今回の訓練では、今年7月に神戸市と包括連携協定を結んだ江崎グリコ株式会社より、5年間の保存が可能である「ビスコ」の保存缶をご提供いただきました。西郷小学校では、上階へ避難した子ども達が教室内で試食し、災害時の保存食の重要性を学びました。また、神戸大学北後明彦教授の研究室により、定点カメラなどを用いて避難行動の記録がとられ、今後避難経路の検証などに活用される予定です。

### ●今後に向けて

実際の地震発生時には、道路の寸断や火災の発生など、今回とは比較にならない困難な状況下で避難をしなければなりません。今後も地域住民の方々や学校等との話し合いを継続し、地域の防災力を高めて「その時」に備えていきます。



(灘消防署)